

一般演題2-7

当院の第2種高気圧酸素治療装置の使用状況

丹保垂希仁<sup>1)</sup> 岡田 基<sup>1)</sup> 中山克明<sup>2)</sup>  
 佐藤貴彦<sup>2)</sup> 天内雅人<sup>2)</sup> 南谷克明<sup>2)</sup>  
 成田孝行<sup>2)</sup> 宗万孝次<sup>2)</sup> 藤田 智<sup>1)</sup>

- 1) 旭川医科大学 救急医学講座
- 2) 旭川医科大学病院 診療技術部 臨床工学技術部門

【はじめに】

当院は第2種高気圧酸素治療装置 (KHO-302A; 川崎エンジニアリング社製) を有し、集中治療部が管理して高気圧酸素治療 (hyperbaric oxygen therapy, HBO) を施行している。今回は、当院でのHBO施行状況について調査した。

【方法】

2015年1月から2018年10月までの46 か月間を調査期間とした。診療録とHBO施行記録から、年別HBO施行件数、年別患者数、診療科別患者数、診療科別施行件数、疾患名を後方視的に調査した。

【結果】

2015年～2018年(1～10月)のHBO施行件数は1355件、患者数は158名であった。年別HBO施行件数は、254件、315件、433件、353件であり、増加傾向であった(Fig. 1)。一方、年別患者数は31名、49名、41名、37名と大きな増加は見られなかった。

診療科別患者数をFig. 2に示す。12診療科でHBOが施行されており、救急科が54名と約3分の1を占めた。HBO施行件数は、歯科口腔外科が25%と最多で、腎泌尿器外科17%、救急科11%、心臓外科11%、耳鼻咽喉科10%と続いた (Fig. 3)。

診療報酬点数点数表に記載されている適応疾患とHBO施行患者数をFig. 4にまとめた。施行の多い疾患は、一酸化炭素中毒(43名)、骨髄炎(21名)、放射性障害(20名)、網膜動脈閉塞症(18名)、突発性難聴(13名)などであった。

【考察】

12診療科でHBOが施行されていた。救急科患者が最多であり、そのうちの約8割を一酸化炭素中毒患者が占めた。工場火災などで複数の一酸化炭素中毒患者が発生した場合には、第2種装置を有する当院へ搬送されることが理由の1つと考えられる。脳梗塞や低酸素脳症といった頭蓋内病変や、整形外科患者でのHBO施行がなかった。安全な体制を整え、HBO適応疾患や効果に関するエビデンスの周知をしていく必要がある。

【結語】

多くの診療科でHBOが施行され、件数は増加傾向であった。さらにHBO施行数を増やすためには、適応疾患、HBOのエビデンスを各診療科に周知していくことが必要である。

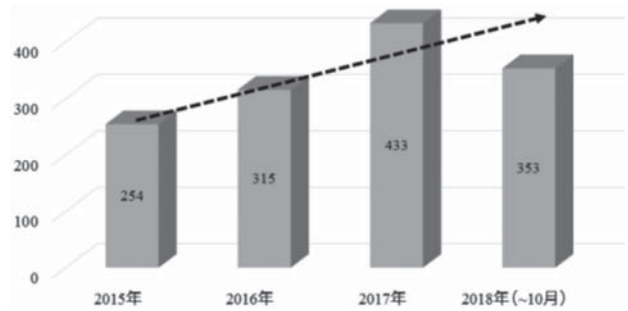


Fig. 1 年別 HBO 施行件数の推移

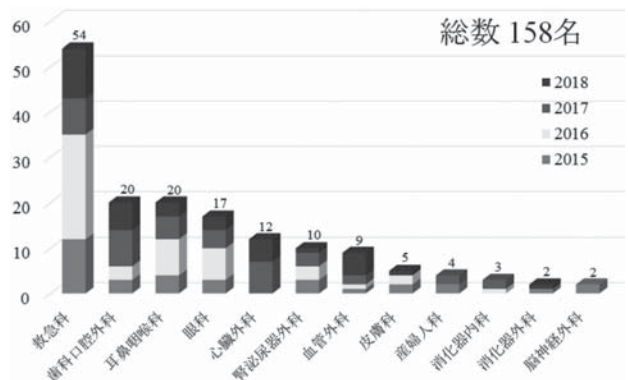


Fig. 2 診療科別患者数

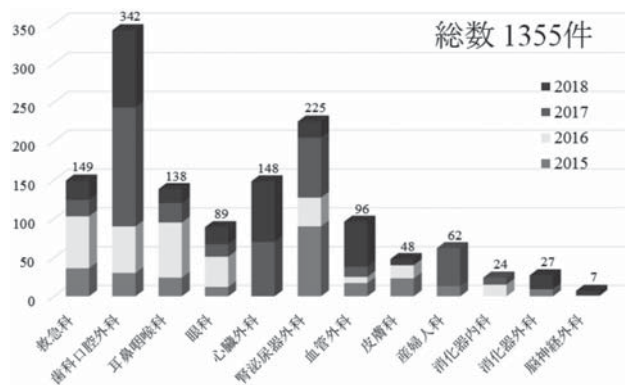


Fig. 3 診療科別施行件数

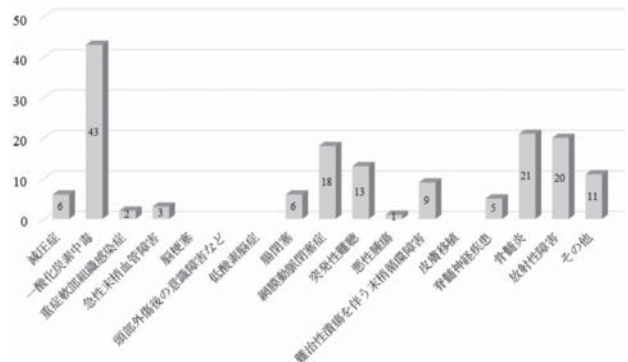


Fig. 4 適応疾患と患者数